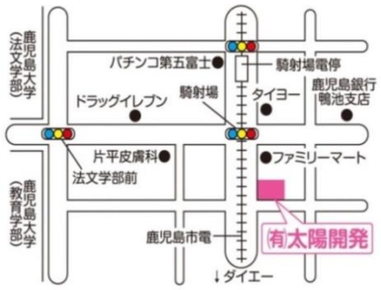
SUNSHINE

第 88号 2016年 1月発行
有限会社 太陽開発
鹿児島市鴨池2丁目1-12 TEL099-255-3623
E-Mail master91@taiyou1991. com

太陽開発 検索 クリック!!



賃貸マンション(オーナー様)ご紹介します！

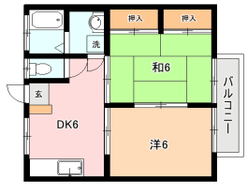
パームツリー & シティパルM

オススメ物件ニャー！

今回ご紹介させて頂くのは、宇宿7丁目にある【パームツリー】と紫原3丁目にある【シティパルM】という2つの物件です。
「パームツリー」は宇宿から広木に向かう通りから1つ入った通りにあり、間取りは2DKタイプです。和室が二間だったお部屋を一部屋洋室にリフォームしており、若い方にも使いやすくなっております。収納も2カ所あり洗面脱衣所など女性にもうれしい設備がついてます。駐車場も1台付きで5万円と良心的なので、同棲をお考えの方やお子さんがいるファミリーにもオススメです。
紫原の「ティパルM」は西紫原小から徒歩一分のところにあり、駐車場1台込の3DKタイプの広々とした間取りです。収納やキッチンのシンクなど一つ一つが大きいので料理もしやすく、お子さんがいるご家族にも使いやすい作りです。
現在空いているお部屋は最上階、角部屋の一番日当たりの良いお部屋です。
詳しくは当社ホームページ・インターネットや雑誌等でも掲載中です(*^_^*)

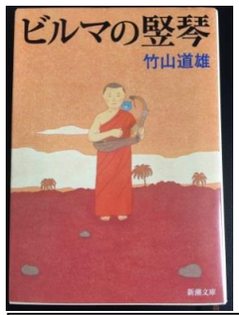
オーナーさん宅の猫ちゃん

パームツリー



シティパルM

今月の一冊 No.87 竹山道雄 ビルマの竪琴



大阪生まれ。評論家、独文学者。東京帝国大学独文科を卒業と同時に一高の行使を務め、後に教授になる。戦前はｼｭｳﾞｧｲﾂｱｰ、ﾆｰﾁｪ、ｹﾞｰﾃ等の翻訳を手掛けた。1948（昭和23）年『ﾋﾞﾙﾏの竪琴』で、毎日出版文化賞、芸術選奨文部大臣賞を受賞。'51年からは教授を辞任し、批評を中心とした著作に専念する。『門を入らない人々』『昭和の精神史』『聖書とｶﾞｽ室』等、多数の著書がある。

ﾋﾞﾙﾏの戦線で英軍の捕虜になった日本軍の兵隊たちにもやがて帰る日がきた。が、ただひとり帰らぬ兵士があった。なぜか彼は、ただ無言のうちに思い出の竪琴をとりあげ、戦友たちが合唱している"はにゅの宿"の伴奏をはげしくかき鳴らすのであった。戦場を流れる兵隊たちの歌声に、国境を越えた人類愛への願いを込めた本書は、戦後の荒廃した人々の心の糧となった。

先月、ﾐｬﾝﾏｰに行って来ました。ﾐｬﾝﾏｰに行くに当たり『ﾋﾞﾙﾏの竪琴』を読んでみたので、今回はそれをご紹介します。『ﾋﾞﾙﾏの竪琴』は1956年と1985年、どちらも市川崑監督によって映画化されています。85年の中井貴一主演の映画の事は覚えていますが、観たことはありません。『ﾋﾞﾙﾏの竪琴』は竹山道夫氏が唯一児童向けに執筆した作品で、とても丁寧で分かり易い文体になっています。今回ﾐｬﾝﾏｰに行ってみて、づくづくこの風土にぴったりの作品を書かれたものだと、感心しました。ところが、竹山氏はﾋﾞﾙﾏに行ったとは無いそうなのです。
私達がﾊﾞｶﾞﾝで泊まったﾎﾃﾙで、屋外で食事をした際、かわいらしいﾐｬﾝﾏｰのお嬢さんが竪琴を演奏していました。戦争の悲惨さは別問題として、作品の世界観というか、風土感のようなものは、感じることが出来ました。作品の面影を探して知らない土地を歩く事は、楽しいものです。

ﾐｬﾝﾏｰ・ﾊﾞｶﾞﾝにて・川越撮影

ランチ＆ダイニング さんしゃくだま

鹿児島市上荒田町32-4さつきビル１Ｆ
◆営業時間◆ 17:00 ～25:00
◆ 定休日 ◆ 毎週水曜日
◆ TEL ◆ 099－251－6186
オーナー 青野 恭也様

今回ご紹介するお店は、昨年2月に上荒田町にOPENしました【ランチ＆ダイニング さんしゃくだま】です。
オーナー青野さんは、大学時代から居酒屋でアルバイトをし、卒業後も飲食店へ就職して【さんしゃくだま】のOPENまで勤められていました。 さんしゃくだまは、ご友人3名での共同経営で『3人で大きい花火をあげようぜ』という意気込みから名前を決められたみたいです。約45名入るゆったりスペースで、実際私が行ったときもすごく明るくおしゃれで良い雰囲気でした。
メインは地鶏のたたきややきとりなど鳥料理になるのですが、時期によって旬な魚料理などもあり出て

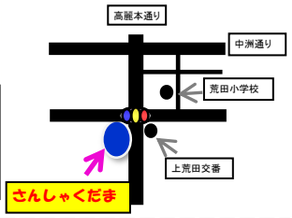
■オーナーの青木様
ご覧のとおりすごく明るく、面白い方です♪

■鶏のたたき
お酒のお供にはかかせません！種鶏を使用しており、弾力のある食感が楽しめます。

■おまかせ串7本セット
炭火で1本1本丁寧に焼き上げてます。新鮮な朝引き！！ここでしか味わえません。

■カマスの姿炭火焼き
白身でもっちり、ふわふわです！脂がのっておりレモンを絞って食すと最高です！！

■大人気、鶏コロ焼き
炭火でじっくり火を通したもも肉は絶品！柚子胡椒がきいており、お酒がすすみます！



今年もひと月が過ぎようとしていますが、昨年同様よろしくお願い致します。
先月、夫婦で息子の住むﾐｬﾝﾏｰへ行ってきました。今回は、ﾐｬﾝﾏｰ政府へのビザの申請、飛行機、ホテルの予約もネットを利用しました。（時代の流れでネットの便利さを享受しています。）成田よりﾐｬﾝﾏｰの首都ヤンゴンまで約8時間、ヤンゴン国際空港よりヤンゴン市内までタクシーで約1時間、道中あるべき所に信号が少なく、車が多いため大変な渋滞を経験しました。ｸﾗｸｼｮﾝの音、秩序ない車の列、ｲﾒｰｼﾞ通りの東南ｱｼﾞｱの風景です。
今回はヤンゴンの息子の家に1泊、世界3大仏教遺跡で有名なバガンに1泊、ヤンゴンのホテルに1泊と短い旅程です。初日は夜着いたので、息子夫婦と外国人向けのレストラン（理由は後ほど）で食事をし、翌朝早く、飛行機で約1時間のバガンへ飛びました。バガンは40km四方のエリアに約3000の仏塔（パゴダ）が点在する人気の観光地です。バガン空港で20ドル（ﾐｬﾝﾏｰの通貨はチャットです）の入域料を支払います。その代わり、各パゴダでの拝観は無料です。
日本の古いクラウンに乗ったガイドと3人で、デタラメ英語をお互い駆使しながら、ニャウンウー市場やオールドバガン、ニューバガンの地域にある代表的寺院を見て回りました。寺院も大小様々あり、人気の寺院では、伝統工芸品である竹を編んで作ったバガン漆器、布に描いた仏画等の土産屋がしのぎを削って商売をしていました。売り子の少女が、手を替え品を替えアタックしてくるので、うまく断るのに大変な根気と、毅然とした態度が必要です。中には気が利く子がいて、最初は親切なガイドとして寺院の見どころを案内し、最後は自分の店へ誘導し、結局は少女の作戦と熱心さに敬意を表し、お土産を購入するという結果になります。（営業は工夫、ねばり、熱意です）印象に残った寺院はシュエズィーゴオン・パゴダとマヌーハ寺院です。シュエズィーゴオン・パゴダはバガンを代表するパゴダで、寺院全体が黄金に輝く巨大な仏塔です。ここにはブッダの歯が納められているそうです。他の赤レンガの仏塔と違い、豪華さが他を圧倒し、イスラム教の礼拝堂であるモスクを想わせる、ドーム型の尖塔が特徴的な寺院です。対照的に落ち着いた佇まいのマヌーハ寺院には他と違った巨大な涅槃仏（ねはんぶつ）があり、それは見る角度により、やさしく笑った顔と怒った顔の両方を見ることができるめずらしい仏像です。（これは売り子の少女が教えてくれました。この後しっかり土産を買わされました。）まるで初めて京都の天龍寺の八方睨みの龍を見た時の不思議な感覚です。翌日は早朝薄暗い中、日の出がよく見える人気のパゴダへ昇り、バガンの日の出を体験しました。朝もやの中に点在する、赤土色、黄金色、白色の無数の仏塔の上を観光客を乗せた20前後の気球がすべるように移動したり、絵画のように浮かんでいる様はたいへん幻想的な雰囲気を醸し出していました。この朝の光景はバガンでたいへんな人気です。
ヤンゴンの人口は700万人を超えていますが（人口密度が非常に高い）市内の道路沿いには多くの屋台が並んでおり、ここではまだ炭を燃料として調理し、お客へ出していました。大きな声では言えませんが、日本人が屋台で食事をすると、てきめんお腹を壊すから絶対食べるなと息子に止められました。好奇心に誘惑されそうになりましたが、腹痛の苦しみを考え屋台は断念しました。今回の旅行はバガンで大小の仏塔巡り、ニャウンウー市場、バガン考古博物館等を訪ねることにより、ヤンゴンと違ったミャンマーを体験できたのが収穫でした。
できればヤンゴンにゆっくり滞在し、バス、電車を乗り継ぎ色々な所を歩き回り、現地の人と同じものを食べれば本当のミャンマー社会が体験でき、ミャ

観光ﾊﾞﾙｰﾝが数多く飛び、幻想的な風景